



令和8年3月31日

岩倉市議会議長

須藤 智子 様

厚生・文教常任委員会

委員長 水野 忠三

厚生・文教常任委員会 行政視察 報告書

本委員会 行政視察について、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1 実施日： 令和8年2月2日（月）～ 2月3日（火）

2 視察先及び調査項目：

令和8年2月2日（月）

- 視察先： 岡山県 総社市
- 調査項目：教育特区の英語教育について

令和8年2月3日（火）

- 視察先： 兵庫県 相生市
- 調査項目：相生市「11の鍵」について

3 出席人数及び氏名：

人数 計7名

委員長 水野 忠三

副委員長 堀江 珠恵

委員 片岡 健一郎



委員 谷平 敬子

委員 大野 慎治

委員 井上 真砂美

委員 木村 冬樹

4 復命事項：

別紙のとおり

厚生・文教常任委員会 行政視察 報告書

実施日： 令和8年2月2日（月）

視察先： 岡山県 総社市

文責： 水野 忠三

視察内容

(1) 視察の目的

総社市では、少子化が進む山間地域の活性化と教育の質の向上を両立させるため、昭和・維新・山田地区の幼稚園、小・中学校を対象とした「総社市英語教育特区」を形成している。最大の特徴は、構造改革特別区域法に基づき、文部科学省の学習指導要領の枠を超えた「特設教科」の設置や、教科の一部を英語で行う「イメージ教育」を導入している点にある。また、住民登録地に関わらず市内全域から就園・就学を認めるオープンな体制を整えている。本市における「小中一貫教育の深化」および「地域特性を活かした特色ある学校づくり」のモデルケースとして、その具体的なカリキュラム、ALTの配置基準、姉妹校交流等の多角的な支援体制を調査することを目的とした。

(2) 事業の概要

「ことばの力は心の力、英語で世界とつながろう！」をスローガンに掲げ、幼・小・中が連携した11年間の一貫した英語教育を提供している。単なる語学学習ではなく、山紫水明の豊かな自然環境の中で外国人や地域住民と交流し、豊かな人間性を養うことを目指している。特筆すべきは、卒業時の明確な数値目標として、小学校卒業時に「英検4級レベル」、中学校卒業時に「英検2級レベル」の習得を掲げている点である。これを実現するため、1年次からのイメージ教育や、ALT常駐といった、公立学校としては極めて異例かつ手厚い教育環境を構築している。

実施対象校園

住所登録地がどこであっても健闘・健学できます。

ねらい

- 1 外国の文化・習慣・生活の理解を深め、国際社会で活躍する人材を育てる。
- 2 自信を持って英語を話せるようになる。
- 3 英語の学習を通して、異文化理解を深め、国際社会で活躍する人材を育てる。
- 4 英語学習を通して、異文化理解を深め、国際社会で活躍する人材を育てる。

英語特区スローガン
ことばの力は心のか、英語で世界とつながろう！

幼児・児童生徒募集

遊びの中で英語を聞く力や話す力を育てる

実施対象校園

上から左から右へ

維新幼・山田幼
経験豊富な外国人指導助手による英語のレッスン(年間95日程度)と自然体験

昭和小
1・2年 週1回英語特別授業「英語の授業」
3・4年 週2回英語特別授業
5・6年 週3回英語特別授業

維新小
1・2年 週1回英語特別授業「英語の授業」
3・4年 週2回英語特別授業
5・6年 週3回英語特別授業

昭和中
1年 週4～5日英語特別授業
2年 週5回英語特別授業
3年 週5回英語特別授業
4年 週5回英語特別授業
5年 週5回英語特別授業
6年 週5回英語特別授業

※特設科目は、年度により変更あり

スタッフ

小1中学校には、経験豊富な外国指導助手(ALT)が専任一人ずつ配属され、毎日担任合うことができます。小学校の開校の時期には、日本人の英語専門教員も一緒に勤務します。幼稚園には、二日に一日の割合でALTがいます。一日中一緒に過ごすことができますので、遊びの中で英語に慣れます。

関連事業

English is Fun!

- ① オーストラリアの学校との姉妹校交流事業
 - オークリー小学校と昭和小学校
 - マルペン (バリー)小学校と維新小学校
 - メルトン セカンダリーカレッジ (中等教育学校) と昭和中学校
- ② 維新中学校と海外ホームステイ体験講座 (修学旅行)
 - 現地中学校生とホームステイ参加生徒連名の「修学旅行学校」を設けます。
 - 現地中学校生が、現地中学校生ホームステイに参加する場合、保護者負担金を補助します。
- ③ 英語検定特別受験
 - 現地の小学校及び中学校において、英語検定受験に協力する協定を締結します。
- ④ 岡山大学との連携事業
 - 現社員と岡山大学が連携して、岡山大学の国際交流センターで、英語学習を行います。

Let's enjoy learning English

＜問い合わせ＞
三社市教育委員会 学校教育課 TEL 0866-92-8358 FAX 0866-92-8397

(出典：総社市 H.P. 『総社市「英語特区」』)

(3) 詳細内容

- 発達段階に合わせた先進的なカリキュラム編成
 - 幼稚園 (維新幼・山田幼)：

経験豊富な ALT が年間 95 日程度来園し、遊びや自然体験を通じて 1 日中英語に浸る環境 (インマージョン) を提供。
 - 小学校 (昭和小・維新小)：

第 1 学年から「特設教科」として英語を導入。昭和小では 1・2 年で年間 20 時間、維新小では週 1 時間の授業を確保。高学年では週 3 時間の授業を実施し、他教科 (図工や音楽等) の一部を英語で行うイマージョン教育により、英語を「学ぶ対象」から「使う道具」へと昇華させている。
 - 中学校 (昭和中)：

第1学年で週4～5時間、第2・3学年で週5時間の英語授業を確保。月1～2回は全学年で「オール・イングリッシュ・レッスン」を実施し、美術科等の他教科でも英語指導を取り入れている。

- **教職員体制と専門性の確保**

各小・中学校には、経験豊富なALTを1名ずつ固定配置。これにより、児童生徒は休み時間や給食時を含め、日常的にALTと接触することが可能となっている。また、小学校においても日本人の英語専門教員を配置し、ALTとのティーム・ティーチング（TT）を徹底することで、指導の質と継続性を担保している。

- **多角的な関連事業と大学・海外との連携**

- **姉妹校交流：**

オーストラリアの小学校（オークリー小、マルベン・バリー小）および中等教育学校（メルトン・セカンダリーカレッジ）と姉妹校提携を結び、実体験を伴う国際交流を継続している。

- **中学生海外ホームステイ特例：**

昭和中学校の生徒向けに優先枠を設け、さらに保護者負担費用の補助を行うことで、経済的理由によらず海外体験を促す支援策を講じている。

- **青山学院大学との連携：**

包括連携協定に基づき、同大学の講師や学生が指導・支援に加わり、最新の教育理論を取り入れた質の高い授業を展開している。

- **具体的な成果と児童生徒の変容**

英検取得実績において、中学校段階で準2級や3級のみならず、2級合格者（平成27年度時点でも既に確認）を輩出するなど、地方の小規模校ながら高い学力を維持している。また、数値化できない成果として、外国人に対して物怖じせず積極的にコミュニケーションを図る姿勢や、英語への高い興味・関心が全学年で見受けられることが確認できた。

(4) 所感と本市への活用・今後の展開

総社市の取組で最も特筆すべきは、「教育特区」という制度を最大限に活用し、小規模校のデメリットを「手厚い英語教育」という圧倒的なメリットに転換した点にある。本市における今後の課題解決に向け、以下の3点を検討すべきである。

1. 「英語で学ぶ」環境の創出:

英語の時間を増やすだけでなく、ICTや副読本を活用し、他教科の一部に英語を取り入れることで、実生活に即した英語運用能力を育む工夫。

2. ALTの役割の再定義:

ALTを単なる補助員ではなく、学校運営や地域交流のパートナーとして位置づけ、児童生徒が「日常」として英語に触れる環境を整備すること。

3. 大学等外部機関との戦略的連携:

近隣大学等との包括協定を視野に入れ、学生ボランティアや専門講師の派遣を受けることで、教員の負担軽減と教育の質の向上を同時に図る仕組み。

総社市の「住民登録地を問わず就学可能」という柔軟な姿勢は、学校の特色化が定住促進や地域の魅力向上に直結することを示唆しており、本市の教育行政においても非常に示唆に富むものであった。



厚生・文教常任委員会 行政視察 報告書

実施日： 令和8年2月3日（火）

視察先： 兵庫県 相生市

文責： 水野 忠三

視察内容

(1) 視察の目的

相生市は、平成22年の「子育て応援都市」宣言以来、全国トップクラスの手厚い支援策を戦略的にパッケージ化した「子育て11の鍵」を展開している。本市においても、人口減少社会における定住促進と少子化対策は最重要課題の一つである。相生市が、単なる経済的支援の羅列に留まらず、どのようにして「11の鍵」というブランドを確立し、転入増や出生率向上（令和元年度には合計特殊出生率2.05を記録）という具体的な成果に結びつけたのか。その施策の網羅性、財源の優先配分、および市民の安心感を醸成する広報戦略の仕組みを詳細に調査し、本市の定住促進策に反映させることを目的とした。

(2) 事業の概要

相生市の「子育て11の鍵」は、新婚世帯の生活支援から始まり、妊娠・出産、そして乳幼児期、義務教育、高校生までをワンストップで支える重層的な支援システムである。特筆すべきは、市内で結婚生活を始め、子ども1人を育てた場合の総支援額が約330万円にのぼると明示している点である。これにより、市民や転入検討層が「相生市に住むことの生涯価値」を具体的に認識できる仕組みとなっている。施策は「経済的支援」「環境整備」「教育・相談体制」の3つの側面から構成されている。

(出典：相生市 H.P. 『相生市「11の鍵」』)

(3) 詳細内容

視察において確認した「11の鍵」の具体的な内訳と運用状況は以下の通りである。

① 結婚・住まいの基盤づくり (鍵 01・02)

- ・あつまれ新婚さん新生活応援金：

若年新婚世帯に対し、住宅費用等を最大 60 万円補助し、3 年間の継続居住でさらに 15 万円を追加交付。

- ・あいのまち住宅取得応援金：

市内に住宅を取得した世帯に最大 50 万円（転入世帯は 30 万円）を交付。住居確保という人生の大きな転機を支援することで、定住の「入り口」を強固にしている。

② 妊娠・出産の不安解消（鍵 03・04・05）

・オンライン医療相談と不妊治療支援：

24 時間体制のオンライン相談窓口（無料）を設置し、心理的障壁を低減。不妊治療（体外受精・顕微授精）に対しても 1 クール 5 万円（年 6 回まで）という手厚い助成を行っている。

・妊婦支援給付金：

出産祝金や育児用品購入支援として、総額 12 万円を贈呈。経済的不安を産前から取り除く姿勢が鮮明である。

③ 乳幼児期・保育環境の充実（鍵 06・07・08）

・こども医療費の完全無償化：

18 歳（高校卒業まで）の医療費を所得制限なしで無料化。

・公立幼稚園の機能拡充：

3 歳児保育の実施に加え、4・5 歳児を対象とした「預かり保育」の無料実施により、保護者の就労支援とリフレッシュの双方を担保している。

④ 教育・学びの質の向上（鍵 09・10・11）

・給食費の完全無料化：

幼稚園から小中学校まで、全ての給食費を市が全額負担。家計への直接的な寄与度が極めて高い施策である。

・相生っ子学び塾：

小学 5・6 年生を対象に、国語・算数・英語に加え「プログラミング」の教室を無料で実施。公教育の枠を超えた学習機会を提供している。

・ワンピース・イングリッシュ:

幼・小・中で一貫した英語教育を展開。グローバル人材育成を自治体の魅力として打ち出している。

(4) 所感と本市への活用・今後の展開

相生市の事例から学ぶべき最大の本質は、個々の施策の単価もさることながら、それらを「11の鍵」として体系化し、「子育てにかかるコストとリスクを市が共有する」という強い姿勢を可視化したことにある。

本市における今後の展開として、以下の3点の必要性を強く感じた。

1. 「子育てコスト」の可視化とブランディング:

本市が現在行っている各種手当や助成を再整理し、相生市のように「本市で育てた場合の総支援額」を具体的に提示することで、定住促進の訴求力を高めるべきである。

2. 教育費の「見えない負担」の解消:

給食費無償化や放課後の学習支援（プログラミング等）は、子育て世代にとって「住む場所を選ぶ」決定打になり得る。本市の教育施策においても、経済的負担軽減と質の向上をセットで検討する必要がある。

3. ライフステージに合わせた「切れ目ない」広報:

婚姻届の提出時から教育期に至るまで、各段階で適切な「鍵（施策）」が提示されるプッシュ型の情報発信体制を構築し、市民の満足度と安心感を高めることが、ひいては次世代の定住に繋がる。

相生市のような「徹底したターゲット戦略」と「インパクトのある資源配分」は、本市が近隣自治体との競争の中で「選ばれるまち」として生き残るための、極めて重要な指針となると確信した。